

# SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2010年5月15日(土)

地域企業紹介 その 7

## 相模原発イノベーションへ向け ネットワーク技術で 不可能を可能にする

半導体や液晶ディスプレイの製造装置で使われる流量センサーやホース継手などの流体制御機器のパイオニアである株式会社リガルジョイントの稲場久二男社長を相模原市南区大野台に訪ねました。

稲場さんは5人兄弟の末っ子として1944年に相模原市大野台で生を受け、高度成長期の中、東京にあった産業用ガスの販売会社に就職し、造船、鉄鋼などのメーカーへの営業に従事する。

そこで、多くの納入先から「装置の部品を加工してくれる会社を探してくれ」、「原材料の調達先を探してくれ」など様々な相談を受けると、京浜臨海地帯を飛び回っていた稲場さんは、そのネットワークを生かし顧客のニーズに添えていった。

そうした業務にやりがいを感じていたある時、日電バリアン(現キャノンアネルバ)から「真空装置の配管を手伝ってくれないか」という要望を受け、これを契機に独立を決意し1974年、30歳で有限会社リガルジョイントを設立。その後日電バリアンと共に半導体のスパッタ装置を手がけ1980年頃には売上16億円、従業員80名と業績を大きく伸ばしていった。しかし、突然注文が激増、激減するシリコンサイクルに翻弄される。

「このままでは夢を持ち、従業員も安心して働けない」と感じた稲場さんは自社製品の開発に乗り出す。それが現在同社の主力製品となっている流量センサーやホース用継手の「カンタッチ」である。

現在は「オゾン」の未来に大きな夢を描いている。「オゾンは優れた殺菌、脱臭、漂白、浄化機能を有しているが、国内ではその能力を十分に活用されていない。今後も医療、農業、畜産などの分野に向け、新商品開発に取り組んでいく」と稲場さんは熱く語る。更に燃料電池の周辺機器である熱交換器やその継手の開発にも取り組んでいる。

また、これらの技術を融合してイチゴなどの水耕栽培事業へも挑戦しようとしている。稲場社長の夢はますます大きな広がりを見せている。

### 株式会社リガルジョイント

代表取締役 稲場 久二男

所在地：相模原市南区大野台1丁目9番49号 資本金：3,200万円

年商：1,637百万円(35期) 創業：1974年7月

従業員数：89名(2010年5月1日現在)

事業内容：流体制御事業、オゾン事業、真空ポンプ事業、ユニット事業

ウェブサイト：<http://www.rgl.co.jp/>

プレサイズゲージ株式会社

## 多くの可能性を秘める光の探求で、最新の光計測・光応用技術を提供

プレサイズゲージ株式会社（代表取締役 小石 結）は、光の探求で新しい時代の要請に応えることを目指し、「光通信部品調芯組立装置・光計測機器の開発、光実装の受託サービス」等の事業を行う光学分野のベンチャー企業である。

1999年、浜松フォトニクス技術者であった小石社長が浜松で創業。2006年にはSICへの東京支店設置とともに上條副社長が合流、2名の技術者とともに光関係企業が集積する首都圏の装置開発拠点として活動を展開している。

同社のもとには、光計測・光応用技術に関する開発案件が寄せられているが、現在、取り組んでいる主な技術開発としては、超小型プロジェクター向けSHGレーザーの評価・組立技術や、(独)科学技術振興機構の先端計測分析・機器開発事業を活用した東京工業大学との「有

機EL寿命の定量的測定技術」共同開発プロジェクトなどが進行中である。

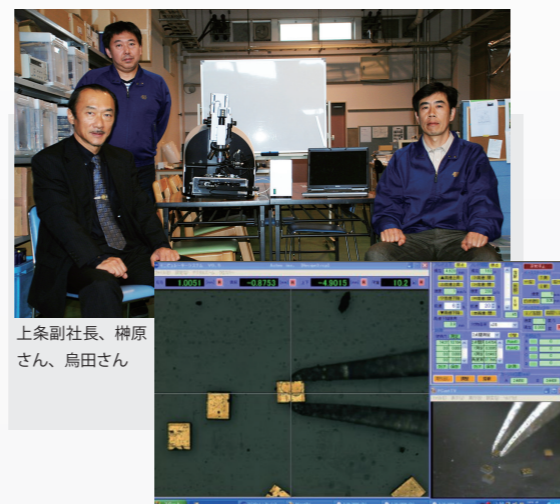
そして、現在力を入れているのが「微小部品のデスクトップ生産を可能にするマイクロチップマニピュレータ」の進化と普及である。

従来の組立線返精度1μm以下の高速光通信モジュール組立自動機は5000万円以上の高価で大型の装置が主流であったが、同社が開発した装置は、低廉価格、デスクトップという省スペースでの生産、高剛性筐体の採用で装置重量25kg（従来重量300kg）という小型軽量化を実現。AFM（原子間力顕微鏡）ヘッドをオプション搭載することで、従来製品にはないマクロ計測からナノ計測も可能となり、分子レベルの配列・深度の測定が不可欠な化学・材料開発に貢献している。

SICに常駐する上條副社長は、東京大

プレサイズゲージ株式会社 代表取締役 小石 結  
さがみはら産業創造センター SIC1-103  
TEL:042-785-3541 FAX:042-785-3542  
<http://www.p-gauges.com/>

学で三次元計測技術や応力解析技術の研究を行い、米国企業で三次元計測装置や三次元シミュレーションソフトを販売した後、日本企業に移籍して、東京工業大学の協力により収差解析ソフトの開発を行うなど、三次元画像解析技術に詳しく、光計測・光応用技術・画像解析技術についてのご相談も承っている。



上條副社長、榎原さん、鳥田さん

高精度ハンド

株式会社共立

## 装置メーカーから環境ソリューションカンパニーへ

当社は、長年培った圧力・真空・乾燥技術を武器に未利用食品の再資源化プラントの開発・製造・販売を手がけています。わが国の食料自給率は先進国の中で最も低く、ついに40%を切り、特に飼料穀物はそのほとんどを輸入に依存しています。一方で食品メーカーや外食産業で大量に食品が廃棄されているため農林水産省では飼料の自給率を高めるために食品廃棄物を原料とするリサイクル飼料「エコフィード」の普及に力を入れています。当社が大規模な再資源化プラントを納入した兵庫県加西市のエコフィード循環事業協同組合は平成20年度の食品リサイクル推進環境大臣最優秀賞を受賞しました。それに続き横浜、藤沢、名古屋でも再資源化プラントを納入し、高い評価を受けています。今後も日本各地で予定されているプロジェクトに参画することになっています。

こうした大規模プラント以外にも食品メーカーを中心に再資源化のための装置を納入しています。たとえば

### 「焼酎の絞り粕から飼料」

九州の焼酎メーカーで廃棄される芋や麦の絞り粕からドライタイプの飼料を製造する装置

### 「パンから飼料」

調理パンの製造過程で出るパンの耳からドライタイプの飼料を製造する装置

### 「ポテトから飼料」

マヨネーズメーカーの惣菜工場で廃棄されるポテトサラダからリキッドタイプの飼料を製造する装置

現在、研究開発に取り組んでいるのが「おから」。優れた特性を持っていながら保存の難しさや独特の臭いでなかなか有効利用されなかった「おから」を「微粉末マイクロ・ソイファイバー」に加工する乾燥・粉碎技術を開発しています。低カロリー、低脂質などの特性を活かしパン、うどん、菓子への展開を目指し、研究を進めています。

株式会社共立 代表取締役 上野 賢美  
さがみはら産業創造センター2-204  
TEL:042-770-9407 FAX:042-770-9408  
URL:<http://www.kyo-ri-tsu.com/>

## 企業をサポートし隊!!

平成21年度

### 「地域産業界の人づくり支援事業」企業訪問調査結果

「ものづくりは、人づくり」と表されるように、企業の持続的活動や成長には、人材は不可欠で最重要な経営資源です。そこで、昨年度、地域産業界の人づくり支援事業では、地域企業の中長期的な成長のために必要不可欠な“人材”にフォーカスし、企業訪問調査によ

り人材の採用や育成を中心に経営課題の抽出を行いました。（調査期間：平成21年7月23日～平成22年3月31日）調査結果内容を抜粋してご報告します。（詳しい調査結果報告は、SICのホームページに掲載しています。）

#### 訪問調査実施企業件数

訪問企業数 500社

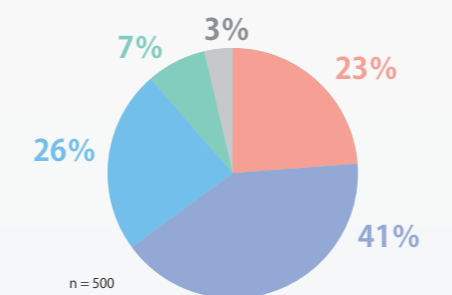
（調査依頼企業数 1,247社/対応不可 747社（休業、廃業、倒産142社を含む））

#### 訪問調査企業の経営状況

調査先の売上高の状況は、23%の企業が昨年の水準を維持、または増加と回答したのに対し、7割強の企業が減少と回答した。全体の3割強は半減、またはそれ以下と回答し、昨今の市況悪化の影響を受けている企業が多かった。

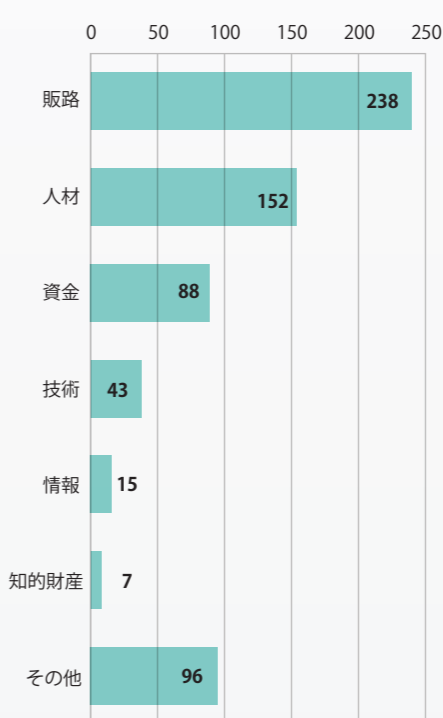
経営課題は販路拡大等が最も多く、ついで、人材関連や資金繰りを経営課題としていた。

調査先企業の経営状況<売上高> (1年前と比較した総売上の変化)



■ 売上増 or 売上維持 (100%以上)  
■ 売上減少 (71~99%) ■ 売上激減 (39%以下)  
■ 売上半減 (40~70%) ■ 無回答

調査先企業が現在感じている経営課題



複数回答

#### 調査企業からの人材に関する支援要望

##### ①人材育成

off-JT<sup>※1</sup>の実施方法または研修・セミナーについて多くの要望があった。多くの企業がOJTによる従業員教育を行っているが、off-JTを意識しているものの場所や時間の制約から実施できていない、またはコスト面の負担を感じているなどの声があった。

※1 Off the Job Training 社外での研修などによる、技術や業務遂行能力に関するトレーニング

##### ②人材採用

中小企業と求職者が会えるまでの「場」や「きっかけ」づくり、求人を行う際に「新卒者」「第二新卒者」「経験者」など対象者を絞り込んでの求人を行いたいとの要望があった。また、求職者への情報発信や入社後のミスマッチ発覚を予防するために、複数社へのインターンシップ（職業体験）の実施を求める意見もあった。

今後、本調査を基に、相模原市とSICなどの支援機関が連携し、地域産業界の持続的な発展と成長に資する支援策の開発を積極的に行ってまいります。訪問調査にご協力をいただいた皆様にご心からお礼申し上げます。

平成22年3月 相模原市環境経済局経済部・株式会社さがみはら産業創造センター



この季節、ちい旅スタッフのお勧めスポットは、相模湖です。スワンボート、遊覧船が楽しめる相模湖、もう一つの楽しみは、貴重なレトロゲームです。今回挑戦したのは、射的とスマートボール。スマートボールのポケットに入ったときのガラスの盤面をガラガラと転がり出てくるボールの音がなんともたまりません。昔ながらのゲームのあとは、食堂のおばちゃんの東京オリンピックの話、楽しいひと時です。





## SIC 経営塾

「会社の将来のために、  
何が必要なのか。」を学びます。

「バブル崩壊による失われた10年」、「ITバブル崩壊」、「リーマンショックによる世界同時不況」などの厳しい言葉が並ぶように、会社を取り巻く経済環境が良好であることは極めて少ないです。しかし、そのような状況下であっても、経営者は会社を継続させ、かつ、成長発展させることが常に求められ、そのためには、「会社の何を守り、何を変えていくのか。」を考えなければなりません。

SIC経営塾では、自社の現状を分析することにより、自社の将来のための課題を考え、どのような計画を立て、どのように実践していくかを、先端的な企業のケーススタディーや、最新の経営理論と実践を通して学びます。

### SICイベントカレンダー

2010年6月～

5月23日(日) SICアントレインターン キックオフ

5月24日(月) さがみはら表面技術研究所 オープニングセミナー開催

6月1日(火)～6月12日(土) 子どもアントレ・ジュニアアントレ受付開始!

6月12日(土)～2月5日(土) SIC経営塾(全11回)スタート!

### 入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (5月10日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(賃料: 共益費込み)

	部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1	セミラボ A	47.3 m <sup>2</sup> 1	134,295 円
	スモールオフィス A	23.6 m <sup>2</sup> 1 ※1	78,750 円
	スモールオフィス B	17.3 m <sup>2</sup> 1	61,320 円
SIC-2	オフィス	50.2 m <sup>2</sup> 2 ※2	164,850 円

※1 SIC-1 スモールオフィスBの空室は、6月から入居が可能です。

※2 SIC-2 オフィス 1室は、6月中旬から入居が可能です。

### 【経営塾の5つの特徴】

1. 同一講師による一貫した指導  
一人の講師により塾生それぞれの環境の違いを良く理解し指導します。
2. ディスカッションを重視した講座  
講師と塾生、塾生同士のディスカッションが中心となります。
3. 課題シートによる自社の分析  
「現状認識」「経営戦略」「財務」「組織」などの課題シートの作成により、自社を客観的に分析し、事業構想を再構築してゆきます。
4. 業種や規模の異なる方との交流  
参加塾生の企業の業種や規模は様々で、あまり知り合う機会の少ない方々との交流ができます。
5. 計画・戦略策定のスキーム  
事業構想の再構築をしてゆく過程で、計画や戦略を考える時に必要な考え方が身に付くよう指導しています。

### コーディネータ



寺本 明輝 Teramoto Akiteru

株式会社浜銀総合研究所 経営コンサルティ  
ング部 部長 主席コンサルタント  
<http://www.yokohama-ri.co.jp/>



中村 浩 Nakamura Hiroshi

株式会社さがみはら産業創造センター  
企画事業部 / 中小企業診断士

今年で9年目を迎えるSIC経営塾では、将来に向けた「自社の事業構想を再構築する。」をテーマとしたセミナーです。2002年の開講から、これまでに8年間で74名が受講しました。毎年6月から翌年の2月までの9ヶ月の長丁場ですが、最終の事業構想の発表会を終えたときは、やり遂げた達成感にあふれていると思います。経営者・経営幹部の方の参加をお待ちしております。

編集後記: 9年目を迎える「SIC経営塾」の塾生を募集中です。10年目を迎えるSIC子どもアントレと9年目を迎えるジュニアアントレも6月1日から募集開始となります。7年目を迎えるアントレインターンはそろそろ始動開始です。今年も無事、SICの平均年齢が下がる季節到来です! 毎年、皆様から応援いただきありがとうございます。今年の夏もよろしくお願いたします。(広報担当)

★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21  
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp